

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290900034		
法人名	有限会社 嶋野商事		
事業所名	グループホームつがる		
所在地	青森県つがる市木造吹原西前田21-18		
自己評価作成日	令和4年7月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和4年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気、自宅に居るときと同じように過ごせるよう支援しています。 また、ホームは天井が高いため、夏は涼しく冬は暖かい、過ごしやすい環境となっており、安定した気持ちで過ごせるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢化する地域において住民の要望に応えるために開設されたホームであり、高齢者が認知症になっても安心して地域の一員として生活し続けることができる場所になることを目指している。 職員はホーム理念に沿って、利用者が能力を最大限に発揮して自信を持って安らぎのある生活ができるよう一人ひとりを尊重したケアを行っている。 敷地内にある法人内デイサービスや居宅介護支援事業所のほか、地域の民生委員・自治会長・老人クラブ等の協力も得ており、状態悪化時や災害時等に関する不安を感じることなく生活できる環境となっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務開始前にホームの理念を唱和し、気持ちを切り替えています。職員同士協力し合い、理念に沿ったケアができるよう努めています。	地域とのつながりを意識した理念となっており、事務室に掲示するとともに毎朝の申し送り時に全員で唱和している。管理者・職員ともに常に理念を意識し、理念に沿ったケアの実践を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の美容室を利用する際に、地域の出来事を聞いたり、利用者に声をかけてもらい等して、つながりをもっています。	ホーム周辺には民家が多いため、コロナ禍以前は利用者達が庭に出ているときに地域住民が立ち寄ってくれる等していた。開設当初から利用している近隣の美容室とは、災害時等には協力が得られる関係となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響により、会議資料を運営推進会議のメンバーにお渡しし、書面で会議を行っています。自治会長や老人クラブ会長、民生委員、居宅介護支援事業所等がメンバーとなっており、ホームでの活動を報告し、ホームの役割を通して、社会貢献しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、会議は書面で行っています。利用者さんの様子やホームでの活動を報告し、意見や質問があったときは、次回の運営推進会議で書面にて報告しています。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。コロナ禍以前は、自治会長・民生委員・老人クラブ会長等が出席し、活発な意見・情報の交換が行なわれていた。現在は利用者の生活状況や活動状況を報告する文書を作成し、メンバーに手渡しして意見や提案を伺い、業務に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍のため聞きたい事等がある場合は、電話で問い合わせをしています。	行政担当課とは、日頃からメールや電話を利用して情報交換を行っている。また、運営推進会議や自己評価・外部評価の結果について意見やアドバイスをいただく等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある利用者さんには、話をよく聞いて、落ち着いていただけるよう支援をしています。外出しようとする利用者さんはいませんが、職員同士で声を掛け合って見守る等しており、施錠はしないようにしています。転倒のおそれがある利用者さんには、職員同士で声をかけあって見守りをしています。	身体拘束の指針・マニュアルを作成しているほか、3か月に1回身体拘束禁止委員会を開催し、全職員の理解を深めている。管理者・職員は、身体拘束は行わないという姿勢でケアに取り組んでおり、日中は玄関の施錠をせず職員が協力し合って見守りをしているほか、無断外出に備えて自治会長・民生委員や近くの美容室等に協力をお願いしている。今まで身体拘束の事例はないが、やむを得ず行う場合に備えて同意書や記録を残す体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、「虐待は絶対にしない」という認識をもって業務に取り組んでいます。虐待を見過ごす事がないように注意を払い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で成年後見制度について学んでいます。今後、利用を希望する方がいる場合は、関係機関と協力し合いながら支援していきたいと考えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時は契約書等を通してホームの説明を行い、質問等がないか確認して質問があった場合は、その都度説明しています。退所時の内容についても入所契約書等を通して説明しています。また、利用内容に変更があった場合は、早目にお知らせし、変更前に再度説明を行い、ご理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来所時は、必ず利用者さんの様子を報告しています。また、毎月手紙にまとめて報告しており、その際に質問や要望等がないか確認し、ある場合はご家族様と相談して決めています。そのときの内容は職員間でも共有し、統一したケアを行えるようにしています。その後の経過も全職員で共有し、より良い介助ができるようにしています。	日頃から話しやすいような関係を構築し、意見や要望を聞けるよう働きかけています。上手く表現できないような利用者には、表情や仕草等から察することができるようにしている。家族には、毎月利用者の生活状況をお伝えするとともに、受診状況等を詳細にまとめた手紙をお渡しし、意見を伺う等している。出された意見・要望等は、申し送りや介護日誌・申し送りノートを利用して全職員で共有し、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場を心掛けており、勉強会時等に意見や提案を聞く機会を設けています。また、利用者さんと良い関係が築けている職員は、その関係を大事にしてケアに取り組んでもらっています。	毎月の勉強会で自由に意見交換ができるほか、業務の合い間や休憩時間にも意見を述べるができる。出された意見や提案は、必要に応じて管理者から事業所運営者に報告して、可能な限り反映させ、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が適時報告をして、職員の思いや状況を把握するようにしています。また、給与のベースアップや労働日の調整等を行ない、職員同士が協力し合いながら楽しく働ける環境をつくれるよう心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人内で勉強会を行う等、一人ひとりが向上心を持って取り組める環境をつくれるよう心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅介護支援事業所やデイサービスの職員等に運営推進会議に参加してもらい、意見を取り入れ、サービスの質が向上するよう取り組んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に思いを引き出せるような問い掛けをするほか、利用者さん同士の会話から思いや要望を組み合わせるようにしています。また、得た情報等は職員間で共有し、安心して生活することができるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった際には、ご家族様の気持ちに同調し、信頼関係が築けるように意識して対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんやご家族様の希望を確認しながら必要な支援を見極め、希望に沿える介護計画を立てています。困難なときは、職員の意見を参考にして対策を考えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやテーブルを拭き等の作業を手伝ってもらっています。「ありがとう」「おかげで助かったよ」と感謝の気持ちを伝え、必要な存在であると感じてもらえるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の出来事を手紙や電話でご家族さまに報告し、アドバイスをいただく等、共に利用者さんを支えられるような関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響により面会ができていませんが、本人やご家族様が強く希望した際は、ガラス越しで距離を取りながら顔を見ていただく等しています。	コロナ禍のため、ガラス越しで面会を行っている。また、病院の帰りに行きたい場所に寄ったり、いつも利用している近くの美容室に行く等して、関係が途切れることがないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでテレビを見たり、会話をしながら一緒に過ごしています。レクリエーション活動では、協力し合ったり、教えあう等、良好な関係を築いています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族様から気軽に声をかけていただいたり、様子を教えてくれる等、良好な関係を築いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんが望む生活の場でありたいと思っていただければよい支援しています。把握が困難なときは、利用者さんが納得できるように工夫や助言し、ご家族様にも相談しています。	個々の特徴を把握したうえで生活状況を注意深く観察し、ケアを通して思いや希望が聞けるよう働きかけている。家族からも面会時や電話連絡時等に情報を得られるよう働きかけ、朝・夕の申し送りや介護日誌・申し送りノートを利用して職員同士情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者さんやご家族様、関係者等から聞き取りを行い、情報収集をしています。入所後もご家族様にホームでの様子を報告しながら自宅に居た頃の様子を聞いて、新たな情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、気付いた事や思った事について申し送りを行い、話し合いをしながら利用者さんの心身の状態を把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討したい事については、ご家族様にホームでの様子を伝えながら自宅に居た頃の様子を聞き取りし、今後について相談しています。また、職員間でも情報共有し、現状に合わせた介護計画を作成しています。	日々の観察や会話を通して利用者の希望を把握するほか、家族からは面会時や電話連絡した際に意見を聞き、一人ひとり合った介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリング・評価を行うほか、状態変化等で必要時には随時話し合いを行って計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても分かるように詳しく記録し、思った事や感じた事も記録しています。それを基に職員で話し合い、介護計画に反映させるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の心身の状況に合わせて支援するようにしています。他機関のサービスも参考にしながら取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに会議資料を持って行った際に、何気ない会話から地域の情報を得て、外部との繋がりを持てるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者さんやご家族様の意向を尊重し、自宅に居たときと同じ病院に通っており、かかりつけ医と連携がとれています。また、入所をきっかけに病院を変えたいという相談がある場合、ご家族様と今後のことも考え、病院を変える等の対応もしています。受診結果は手紙等で細かく報告しています。	入居時にこれまでの受療状況を聞き取りながら入居後の受診について話し合いを行っている。できる限り家族の協力を得ながら本人・家族が希望する医療機関を受診できるように支援をしている。受診結果は、電話や毎月の手紙で報告して情報共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と情報共有し、ご家族様も交えて治療方針の話し合いを行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、重症化した場合はホームでの暮らしが困難になる可能性もあることを伝えていきます。次の受け入れ先の確保と入所できるまでの支援を継続して行うことを説明しています。	入居後に状態が変化しホームでの生活が困難になったときは、主治医を含めて家族と話し合いを行っている。また、法人内の居宅介護支援事業所の協力も得ながら受け入れ可能な施設等へ不安なく住み替えできるよう支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の介護現場で、事故発生時にケアの仕方を伝えています。また、実際の経験や勉強会、マニュアル等を通して、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、消防署にも報告しています。避難訓練後は職員が消火器を使った消火訓練も行っています。また、水害時等の避難経路は、マニュアルを通して共有し、自治会長等に協力を仰ぐ等、地域との協力体制を築いています。	年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を行い、計画書および報告書を提出している。コロナ禍以前には老人クラブ会長が訓練を見学し、いざというときは地域住民が協力するよう呼び掛けてくれた。災害発生時に備えて、水や食糧、石油ストーブ等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんは人生の先輩であるという意識を持ち、言葉遣いに気をつけています。また、プライバシーに配慮した対応にも心掛けています。	尊厳やプライバシーに配慮するとともに、声かけや対応の仕方には十分し、個々のペースに合わせたケアを行っている。勉強会で振り返る機会を設け、不適切なケアが見られたときは管理者が注意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの気持ちを引き出せるような声掛けをするほか、表情からも読み取るようにしています。また、本心が言えるような環境作りをして、思いを聞き、一緒に考え、自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの希望に沿うような支援を心掛けていますが、難しい場合は、早目に説明し、なるべく希望に近づけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルスに感染しないよう、現在は外出時を控えています。病院受診のために外出した際は、衣類を自分で選んでもらい、支援が必要な方には声掛けしながら選び、おしゃれを楽しめるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの好き嫌いを把握し、状況に応じた食事を提供しています。お手伝いができる利用者さんには、テーブル拭き等を手伝ってもらっています。	利用者に意見を聞きながら季節や行事に配慮した献立を作成している。苦手な物等には代替品を用意している。個々の意思や能力に応じて、皮むきやテーブル拭き等を手伝っていただくほか、おやつ作りを企画して、利用者が食事の時間を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックは毎回行い、摂取量が少ない方には声掛けをして摂取を促しています。気になる場合は、主治医に報告・相談し、指示を仰いでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な利用者さんには、職員が介助しています。自分でできる利用者さんも、磨き残しがないかを確認し、必要に応じて職員が支援し、口腔内を清潔に保持ができるように支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁がある方も定期的に声掛けやトイレ誘導し、トイレでの排泄を維持できるよう支援しています。	排泄状況を記録することでパターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。体調や状態変化に応じて職員間で排泄用品の変更やケアの方法等話し合い、家族とも相談しながら状態に合わせた排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い運動や体操をしています。水分も多めに摂取するようにし、便秘予防をしています。排便ないときは、処方されている下剤を服用し、排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日を週4回設け、少なくとも週2回は入浴できるようにしています。入浴拒否がある利用者さんには、声掛けを工夫することで入浴してもらっています。	週4回入浴できる体制を整え、ゆっくり余裕を持って入浴してもらえるようにしている。拒否があったときは、声掛けを工夫したり、時間を置いたり、翌日にする等、柔軟に対応している。身体状況によりシャワー浴にしたり、職員2人で介助する等、安全にも配慮している。1人週2回は入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	多くの利用者さんは起床後はホールで過ごしています。横になりたい場合は、居室に戻って過ごしています。就寝時間も一人ひとり違うため、それぞれの生活リズムに合わせて休息できるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったときは、職員間で申し送りし、利用者さんの様子に変化がないか観察しています。また、服薬についても、誰に飲ませるか声に出して確認し、全員の服薬後も飲み忘れがないか相互確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	積極的な利用者さんは、消極的な利用者さんに声をかけたり、教えたりしながら、楽しく参加しています。身体的に不自由な利用者さんは職員と共に行う等、全ての利用者さんが参加して気分転換が図れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの床屋さんに行きたいという方は、ご家族様が協力して連れて行っています。新型コロナウイルス感染予防のため、外出は控えていますが、病院受診の際に買い物を希望すれば、本人の希望に沿って職員が代わりに買い物をしており、喜んでもらっています。	コロナ禍のため外出行事は行っていない。買い物の希望があれば、病院の帰りに店に寄って職員が買い物代行の支援をしている。天気の良い日は敷地内を散歩したり、屋内でも季節を感じられるよう工夫を凝らしたレクや行事を企画し、気分転換を図っている。個別の希望があったときは、家族に連絡して協力していただいている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の意向もあり、全ての利用者さんがお金を所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳が遠い方や会話が困難な方には、制作活動等を通して、ご家族様に気持ちを伝えられるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は季節を感じられる飾りつけをしています。ホール内に温度計と湿度計を置くほか、風通しを良くして、快適な空間となるようにしています。	平屋で天井が高く天窓があり、ホールは日射しが十分に入り込んで明るく伸び伸びとした空間となっている。1日2回ホールに設置した温・湿度計を確認し介護日誌に記録している。ホールには季節に合わせた壁飾りがあり、賑やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ席とテーブル席があります。居室で過ごしたい方は居室へ誘導し、思い思いに過ごせるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の意向で、入所に合わせて新しい物を使う場合があるが、日常で使う湯飲み等、必要な物の持ち込みをもらっています。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうように伝え、家族の写真や飾り物が持ち込みがある。入居後、手作りの作品を飾る等して、安心して過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	朝食前に今日の日にちを伝え、季節感を持ってもらえるようにしています。洗濯干しや洗濯たたみ等の簡単な家事をやりたい方には、職員と共に行っています。他にも手伝いたい事があればお願いし、心身ともに豊かな生活ができるように支援をしています。		